▲　春を迎える梅の花　開花　　（２月５日撮影・当山）

慧光

金光寺寺報
第２１２号
発行所　金光寺
宮崎県西臼杵郡
五ヶ瀬町大字鞍岡
５９２７番地
☎　０９８２
８３－２３３８

今月法語カレンダーのことば

きくというは信心をあらわす御のりなり

「浄土真宗は、聴聞にきわまる」といわれます。今月のことばは、親鸞聖人が書かれた『一念多念文意』というお聖教のなかにあります。「聞く」という語が、「信心」をあらわす。つまり、「聞く」という語によって「信心」があらわされるというわけです。

浄土真宗は、「信心正因」の法義です。「信心」は、「心」という字があるように、私の心に起こるものです。私の心に起こることについて、私のはたらき（自力）が関わったのでは、迷いのもとが雑じることになり、仏因とはなりえません。仏因になりうるものは、阿弥陀さまからの真実が届けられる他力回向の信心のみです。

私の心に起こることでありながら、私の心のはたらきをさせないあり方とは、どういうことになるでしょう。それが、聞くままがそのまま信となる、「聞即信」のあり方です。

「聞く」という行為は、先手の音声があって、初めて成立します。私が講義をたのまれても、日時を間違えて一日遅く行ったら、せっかく集まってもらった受講生にとっては、私が到着してないので「聞く」という行為は成立しません。

阿弥陀さまが「喚び声」の仏さまとなられたのは、私の心に起こる信心について、私の心のはたらきをさせず、先手の「喚び声」がそのまま信となる、まさに「他力回向」の信となる救いの構造を完成されたからです。

人間の五感のうち、一番最後まではたらいているのが、実は耳なのだそうです。人間にとっては聞くということが最も基本なのかもしれません。

（本願寺出版社刊「大乗」誌掲載
『月々のことば』より抜粋　転載）

仏教名言ノート

忍をもって鎧となす

「キレる」という言葉をよく耳にするようになってから久しくなりました。

親や先生に叱られてキレた小・中学生、上司に注意されてキレた社員、あまりのスコアの悪さにキレたゴルファーから「逆ギレ」まで、「キレる」人は多くなったようです。

以前は、決断が速くてよく物事を処理する頭のいい人を、「あの人はキレる人だ」、「切れ者だ」と呼んでいました。

しかし、今、使われている「キレる」はこの意味ではなく、「堪忍袋の緒が切れる」の「キレる」だそうです。

この諺は、我慢に我慢を重ねてきた怒りがもはや限界に達して、ついに爆発することをいいます。

「堪忍袋」は、怒りをこらえて我慢する大きな度量を袋に例えたのですが、現代人はその度量がたいへん小さいのではないかと指摘する人もいます。だから、簡単に「キレる」のだというのです。

「忍をもって鎧となす」

龍樹菩薩の『大智度論』の言葉です。「忍」は忍耐で、忍辱ともいいます。

この文のあと、「禅定をもって弓となし、智慧をもって箭となし、そと魔軍をやぶり、うち煩悩の賊をほろぼす」と続きます。

忍耐は禅定や智慧とともに、身を守る武器であるというのです。それによって、外からの誘惑や、内からの迷いに打ち勝つことができるのです。

「キレて」しまうと、取り返しがつかないことになりかねませんね。

あまり、簡単に「キレない」ように、身を守る武器（忍）を大切にしてください。

（本願寺出版社発行
辻本敬順著
「仏教名言ノート」から）

仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き、仏事は行いません。ご協力をお願いします。

◎　３　月

８日（金）　終　日
１３日（水）　終　日
２１日（木）　終　日

◎　４　月

２０日（土）　終　日

◎　５　月

２７日（月）　終　日

２０１９年１月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げます。

２０１９年１月１８日　満９６歳
荒　谷　　白　瀧　カメ子　様
２０１９年１月２３日　満８３歳
日向市　　松　井　道　子　様

ホームページ開いています。
ＵＲＬ　http://konkouji.jp/
２月５日現在アクセス数　８５，６６９人

住職ひとりごと

　昨日四日は立春でした。立春とはいえ、例年ならこの時期が一番寒いのですが、今年は暖冬ですね。雪がパラつくことはあっても積もることはありません。私にとってはうれしいばかりです。▼今月号の表紙は梅の花でした。例年二月中旬ごろから開花だと思うのですが、今年は一月中旬には数輪花開いていました。まだ満開にはほど遠いのですが、おかげさまで表紙に梅の花を使うことができました。ちなみに昨年二月号の表紙はどっさり雪の降った境内地の写真でした。▼ただ、スキー場にとっては芳しくない暖冬ですね。ようやく、千メートルの距離でゲレンデがオープンしたようです。聞くところによると昨年の八割くらいの入場者数だそうです。このままではスキー場の行く末に暗雲がただよいます。私も行ってないのであまり言えないのですが、皆さんスキー場に行きましょう。▼朝はまだ夜明けが遅いのですが、夕方は日没がずいぶん遅くなりました。三寒四温を繰り返し、春が訪れるのももうすぐです。まさに「春よ来い、早く来い」の気分です。

（住職　松井卓郎）